

From Kobe 2014.4月

技術変革時代のニューリーダーでなかったのか?? 小保方さん

1. 日本は今 心のない時代に 今齋藤をならさねば・・・

2.. STAP 細胞の小保方さん STAP 細胞は存在するのでしょうか...

1. 日本は今 心のない時代に 今齋藤をならさねば・・・



仮面の女神



縄文のビーナス



合掌土偶



縄文の女神



中空土偶

縄文の土偶 通称「仮面の女神」土偶が国宝になるとの報。うれしいかぎり。

ふくよかな女性像、豊穡・再生の象徴とか、女系家族の母・先祖の象徴などと言われるが、何のために作られたのかはいまだによくわかっていない。でも このふくよかでほのぼのとした女性像をみると何かほっとして 心地よい。

「日本人のこころのふるさと・心優しき縄文人」の象徴として、縄文のストーンサークルが取り上げられることがよくあるが、この縄文の土偶たちもそうなのだろう。

「戦さのない縄文」日当たりの良い森で狩猟・採取・栽培の豊かな生活文化を 8000 年の長きにわたって育んだ縄文人。

今 縄文人を振り返ってみる必要はないか……。

人類の歴史約 20 万年 地球激動の中を生き延びてきた一番の要因は「ヒューマン・協力&他を思う心の行動」が最大の要因といわれ、人間が決して、とびぬけた頭脳を持っていたわけでも、強かったわけでもない。

最近の研究では チンパンジーやゴリラばかりでなく、超能力を持つ動物が次々と見つかっているという。

生存をかけて 個人で連携することなく、他の動物との戦さに明け暮れておれば、それこそ激動の地球環境も相まって、人は絶滅していたという。

我々のルーツを遡ってゆくと、「すべての人類は母方の家系をたどると、約 12-20 万年前 アフリカで生きていた一人の女性にたどりつく」と言われ、「**現生人類の最も近い共通女系祖先**」だという。

このたった一つの母系が現在まで生き延びてきた。女系集団で生きてきたからこそ、生き延びてこられたともいわれる。

そして、この一団が幾度となく遭遇してきた生死の困難を乗り越えられた一番の要素はこの集団が「ヒューマン・他を思う心の行動」を受け継いできたからだという。

2012 年に4集にわたって放送された NHK 番組「ヒューマン なぜ人は人間になれたのか」は

その人類の歴史を具体的な取材を通して もののみごとに解説してくれた。

【Iron Road】**視聴・購読メモ**「ヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」

NHK「ヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」 & 角川書店NHKスペシャル取材班「Human ヒューマン」

<http://www.infokkna.com/ironroad/2012htm/iron8/1204human00.htm>

「集団の協力」はまだしも「他をおもう心」がメインの行動原理になるなんて・・・と当初は思いましたが、激動の中人類の遭遇してきた数々の困難を克服してゆくプロセスの具体的実証にびっくりし、心に強く残りました。

人類の進化系統図をみるとそのすごさが改めて分かる。

そんな人類の歴史の中で 大きな戦さもなく、1 万年の長きにわたって平和な暮らしが続いた森の文化 縄文。

縄文の後の弥生時代から現代まで 約 2500 年 戦さの歴史と対比してみると そのすごさにびっくりする。

そんな中で、「心優しき縄文」の例として、幼いときに小児麻痺にかかった少女が、その後成人し、人生を終えるまで、縄文の村で生活が続けられたことを示す人骨が北海道入江貝塚から出土した。

「心優しき縄文人 まさに他を思うこころ」が この仲間集団が この少女を守り抜いたと。

ふくよかな縄文のビーナスを見るたびに そんなことを心にとめ、「縄文帰り」と私は呼んでいる。

今 また こんな話を持ち出したのは 今の社会高度情報化社会 グローバル化の大合唱の中 まったく周りを見る心すらなくなってきた、《自己中心》をひた走っているように見えるからだ。

数をたのみ、自分たちの思うままに強行突破してゆく今の政治に本当に先はあるのだろうか……。

日本沈没の道をひた走りに走っているのでは……と。

グローバル・国際化・デジタル化・中央東京集中 ⇔ 地域循環型経済・アナログ対面への回帰・地方

そして、正規・非正規の雇用の2極分化

格差の広がり目は目をおおうばかり。我々庶民にも目に付くようになってきている。

反論を承知で、「今 日本では 政治・経済・教育 何をとっても 競争を口にして、“自己中心”になっている」

また、すぐに新興国との競争を口にする姿勢者 でも日本もそんな時代を経験して今がある。

そんなルーツをほうかむりして、今の刃を新興国にも向けなくてはなるまい。

この同じ視点を **グローバル・国際化・デジタル化・中央東京集中 ⇔ 地域循環型経済・アナログ対面への回帰・地方**

そして、正規・非正規の雇用の2極分化 にも。

他を犠牲にした政治・経済の特出はいずれ 問題を起こすと……。

なにか おかし

い昨今 老兵にはなんともはや 住みにくくなりました。

激動・変動の嵐が吹き荒れるむづかしい時代

アベノミックスが何でもかんでも解消してくれるというムード作りが進んでいるが、ほんとうだろうか???

正規・非正規雇用の雇用格差は経済・教育・人口問題等を含め、確実に日本をハイスピードで歯止めの効かぬ格差社会化を推し進めている。

東京と地方の格差はますますひろがり、東京一極集中 大企業一辺倒の政治しか頭にない政府

「頂点同調主義」の声を待つまでもなく、日本人は自分の頭を見て、考えなくなった。

仲間の顔色を見るのが処世術の社会に事の真偽を確かめるすべも持たず、

大量情報が容易に手に入るインターネット・スマートホンにどっぷりである。

人が割り込める余地は日に日に狭くなっている。

情報も仲間も何の疑いもなく無節操に手に入る時代

唯一頭の中には 仲間から取り残されまいとする脅迫観念にさいなまれている。

冷静に考えれば ちょっとおかしくはないか……

人類の歴史 20 万有余年

「ヒューマン」たる由縁 激動の地球環境を乗り越えて 生き延びてきた唯一の力は「他を思う心」の行動。

人に会って他の動物にないものそれが「他を思う心」だという。

今の日本で一番忘れられているもの。そして、戦後 日本人が捨て去ったものが「他を思う心」かもしれない。

ストップ ザ 雇用格差 を叫ばないと 日本社会は崩壊の危機に立っている。

「日本は戦後という呪縛から脱する中で

戦後 広く社会で議論されてきたことすべて捨て去ってしまった」という外国メディアの直言。

一度 耳を傾けてもよいのではないか。

「心優しき縄文人」 言葉も金も持たぬ狩猟・採取自然の中で 厳しい環境の中で生きた縄文人の村で

小児麻痺に侵された幼い少女が、成人して死ぬまで、村人たちに支えられて生き延びたという。

今 国際化・グローバル化の対極として地域循環自立経済の仕組みに身を投ずる若者が増えつつあると聞く。

無責任には言えないが、老兵の身にはうれしい限りである

2014. 4. 1. from Kobe Mutsu Nakanishi

2. STAP 細胞の小保方さん STAP 細胞は存在するのでしょうか…

「万能細胞の iPS 細胞をつくるには、いくつかの遺伝子を細胞に入れねばならぬのに、酸性の液体につけるだけで 万能細胞の STAP 細胞ができる」との小保方春子さんほか 14 名共著の論文がネイチャー誌に掲載されたと発表。

一大センセーションを巻き起こした。

すごい発見が 30 歳そこそこのまだこれからの女性研究者によってなされた。

◎ 虚像と実像 どっちだろう…

会見を聞いていて、今まで見てきた私の知る若手研究者像とは全く違うのに、びっくりするとともに、これがこれからの激動の時代を担う若手研究者像かと今後を期待し、おおいに拍手喝采したのですが……



ところが、その論文の記述・画像にいろいろ疑義が生じ、数多くの人たちが その論文手法に批判を浴びせている。

本当のところは どうなのだろうか……

また、名もある数多くの共著者が、彼女一人を批判の中にさらしているのにも、カチンとくる。

◎ 論文発表の会見で彼女は「この発見 誰も信じてくれないのです。どう 納得させたいのか…」という。

「そうや そうや 新しい発見に批判はつきものだ」と。

また、その後、論文の記述・証明写真の加工など論文の作成の中身にあれやこれや集中砲火が浴びせられている。

鬼の首を取ったような批判のされ方にもびっくり。

◎ そんな重箱つつくような問題よりも 発見したという STAP 細胞がほんまなのかどうかの検証が本筋だ。

大センセーションを巻き起こしたのは この STAP 細胞なのだから……

この真偽がきっちり抑えられることにより、今問題にしていることも おのずと明らかになると。

小保方さん 共著者 理研など まずやることは この STAP 細胞の証明と証明できないならその位置付けをクリアーにすることだろう。それが この論文の一義的責任だと思うのですが……

論文加工の問題に小保方さんに問題があったにしろ、先の言葉にあるように、証明のため いかにも内容をクリアーにするかとの意思は当然あったろう。まず 小保方さんの論文加工の問題よりも、STAP 細胞発見の真偽が知りたい。

論文記述の加工の問題は それぞれの部署がクリアーにすべき問題で、話題を大きくすべき問題だろうか……

発見会見時の小保方さんは虚像 それとも実像?? それよりも STAP 細胞発見の真偽をまず知りたい。

あとは 先の東大の誰やったか… 人のうわさも……である。

◎ なお、小保方さんの論文についての調査の矛先 14 名共著ではなかったか…

分野レビューに他の論文コピーや他の写真からの部分加工・貼り付けが、論文批判の主になっている。

でも、今の時代 インターネットには情報は満ちあふれ、インターネットの資料を取り出し加工することも写真の部分加工もパソコンを使えば 自由自在。インターネット検索など小学生でもやっているし、批判するマスコミ 研究者の学術レビュー 説明プレゼン 雑誌・本等々 等々 世にあふれている。

すでに 大学生の報告には そんな提出物が数多く、それを見抜くプログラムソフトにかけて、チェックする事も多いと聞く。コンセンサスが得られぬことであろうが、そんな時代に鬼の首を取ったような批判をする時代でなかろう……。

それこそ 時代を知らぬ年寄の……と。

ドクターコースを出たての新進の研究者 多少 あまえがあっても 良からうとおもうのですが……。

◎ 忘れてはならぬが、発明・発見に捏造はだめ。加工はゆるされるのだろうか…

でも 最近の情報処理技術はその境界をも不明確になってきているのも事実。

でも それこそ そんな警鐘をしっかりとレビューし、**捏造か加工か いずれなのかをクリアーに**すればすむ。

まだ、若いはずとした若手研究者の登場とその発想に STAP 細胞発見が証明されることを待っている